

【レスリング】

インターハイ

7月29日から8月1日までの4日間、玉名市総合体育館(熊本県)で全国高等学校総合体育大会レスリング競技大会が開催され、佐藤君、高橋君、鏡さん、坂本さんの4名が出場し、全員がメダルを獲得しました。

男子71kg級に出場した佐藤君は、安定した試合運びで、2回戦から準決勝までの4試合全てテクニカルフォール勝ちで決勝に進出。決勝では、残り10秒から相手が攻勢に出ましたが、それを凌いで9対2で勝利し、2連覇を果たしました。

男子60kg級に出場した高橋君は、スピードを活かしたレスリングで、準決勝に進出。準決勝の最終ラウンドまでリードしていましたが、高橋君の片足タックルをカウンターされ2ポイントをラスト2秒で奪われチャレンジしましたが、成功せず5対7で敗退し、悔しい3位となりました。

女子74kg級に出場した鏡さんは、2回戦から決勝までの4試合無失点という圧倒的な試合で優勝し、3連覇を成し遂げました。この結果、鏡さんは、女子の最優秀選手賞を受賞しました。

女子50kg級に出場した坂本さんは2回戦から出場し、粘りのあるレスリングで3試合を勝抜き、準決勝に進出。準決勝では、ポイントの取り合いとなりましたが、最後は攻め込まれ、4対14で敗れ、3位となりました。

インターハイは独特な雰囲気のある大会で、3年生の佐藤と鏡は、落ち着いた試合運びでそのプレッシャーにも負けずに連覇を果たしたことは、すばらしい結果です。今回3位に終わった高橋君と坂本さんには、今大会の経験を活かし来年度は優勝を期待します。



【全員がメダルを獲得した(日本レスリング協会HPより)】

【アーチェリー】

東京オリンピックテストイベント

7月12日から18日までの7日間、来年の東京オリンピックのアーチェリー会場を使ったテストイベントが開催され、園田さんが出場しました。

このイベントは、オリンピック本番に向けて新たに建設された「夢の島公園アーチェリー場」を実際に使った大会であり、世界各国から130名(男子67名、女子63名)が出場しました。

園田さんは、予選第20位で決勝トーナメントに臨みました。1回戦はLorig選手(USA)に、2回戦ではAdiceom選手(FRA)に勝利。準々決勝進出をかけて、Kumari選手(IND)との対戦となりましたが、0対6で敗れ、9位という結果に終わりました。

遠征や合宿が続く中、疲労が蓄積しながらも世界の選手の力を感じつつ、緊張する中で結果を残すための課題もはっきりすることができました。東京オリンピックに向け、実際の会場で気象条件を確認しながら試合ができたことは大きな収穫でした。

《園田さんのコメント》

「今回、東京2020テストイベントがオリンピック会場である『夢の島公園アーチェリー場』で行なわれ、日本選手団として参加することができました。一年後のオリンピック会場での試合ということで、一年後を想像すると緊張感とワクワク感が大きく、他の試合では感じられない特別感が大きかったです。自分が一年後この舞台に立ち活躍する姿を想像すると高揚感を覚えるとともに、地元開催のオリンピックに出たいという気持ちが強くなった大会でした。」

【卓球】

ITTFワールドツアー

7月2日から7日までの6日間、ITTFワールドツアー・韓国オープンが釜山で、そして7月9日から14日までの6日間、オーストラリアオープンがジーロングで行われ、宇田君、長崎さん、木原さん、小塩さんの4名が出場しました。どちらの大会も強豪中国のトップ選手たちが出場するレベルの高い大会でした。

韓国オープンでは、女子3名が実力を最大限に発揮し、世界ランキングの上位選手を倒して予選を通過することができました。特に、木原さんと小塩さんは、試合が競る場面で粘り勝つことができ、精神面での成長が見られました。

オーストラリアオープンは、さらにレベルが高い大会だった為、苦戦を強いられました。宇田君は予選1回戦から世界ランキング11位の選手との対戦となりました。残念ながら負けてしまいましたが、力強い試合で健闘しました。女子シングルスは格上選手に対して勝利することはできませんでした。しかし、女子ダブルスで、長崎・木原ペアが準決勝まで進出し、世界ランキング1位と4位の中国ペアを相手に大健闘しました。

この2大会で、選手たちはそれぞれの持っている力を発揮し、自信を持てたと思います。これからさらに高いレベルで戦うために、今回見つかった課題を克服し、上位を狙ってほしいです。

【アーチェリー】 ワールドカップ

7月2日から7日まで、アーチェリーの2019年度ワールドカップ第4戦がベルリン(ドイツ)で開催され、伊藤君が出場しました。伊藤君は今年初めてナショナルチーム入りを果たし、シニアの国際大会は今大会が初出場となりました。

男子個人戦は89名が出場し、伊藤君は予選で強風に悩まされ57位という結果でした。決勝トーナメント1回戦でCastro Daniel選手(ESP)に0対6で敗れ、団体戦でも1回戦でアメリカに0対6で敗れ、上位進出はなりませんでした。

世界のトップ選手は悪天候の中でも、天候に左右されることなくしっかりとスコアメイクしています。アーチェリーでは、「再現性」が重要であるといわれています。伊藤君にとっては、どのような条件でも練習で身につけた自分の射ち方が「再現」できるようになることが大きな課題です。

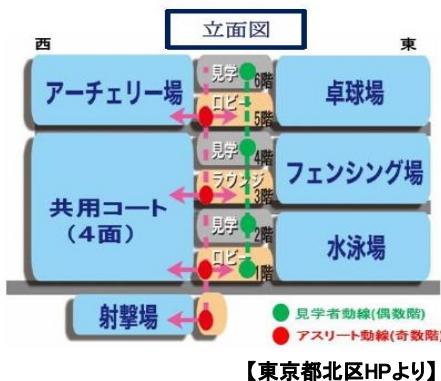
【ナショナルトレーニングセンター拡充棟(仮称)】 運用開始

8月1日にナショナルトレーニングセンター拡充棟(仮称)の運用が開始されました。この施設は、文部科学省が中心となって2020年東京大会に向けたオリンピック競技及びパラリンピック競技の日本代表選手の強化が一体的な拠点構築を進めるために建設されました。エリートアカデミーではライフル射撃(地下)、フェンシング(3階)、卓球(5階)、アーチェリー(5階)の4競技がこの施設を利用します。

《アカデミー生の声》

「私は、この度新設された拡充棟にオープンしたアーチェリー場を利用できることに大きな喜びを感じています。新しいアーチェリー場では、これまでの練習場と比べて約4倍の広さになり、全ての的にカメラが設置されたことで、自分の射ち方の分析を出来るようになりました。また、大きな送風機が設置されたことで、風の中で射つ練習も出来るようになりました。これまで以上に恵まれた練習環境で、自己ベストを更新していけるように努力していきます。伊藤魁晟」

「これまでのJISSでの練習は、射座数が少ないため、エリートアカデミー生のみで行うことがほとんどでした。しかし、NTC拡充棟が完成して十メートル射場の射座数が五倍に増えたことで、ナショナルチームの選手と同じ時間帯に練習することも可能に



なりました。その選手たちとの知識・情報の共有やナショナルコーチによる指導等を存分に活用し、より一層競技力の向上に励んでいきたいと感じました。高木 葵」

【Vプログラム】 アンチ・ドーピング教育

7月23日19時から、第1回アンチ・ドーピング教育を公益財団法人日本アンチ・ドーピング機構(JADA)教育・国際部教育・情報グループの協力で、21名が参加して行いました。

これは、「アンチ・ドーピングについての知識や理解を深める」、「スポーツの価値を考える」という二つの目的で毎年行なっているもので、今年も2クラスに分け、次のような内容で行いました。

《エリートクラス》

- 対 象 ドーピング検査対象レベルのアカデミー生
- 内 容 前半:これまでの違反の事例などについて学ぶ
後半:グループでの活動を通じて、アスリートにとって大切な何かを学ぶ



《アカデミークラス》

- 対 象 基礎的な学習が必要なアカデミー生
- 内 容 前半:スポーツの価値を考える
後半:アンチ・ドーピングについて理解を深める



初めて参加した12期生の吉田君は、『これまで2回同じような研修に参加しましたが、今回はグループで意見をまとめて、劇をやったので分かり易かったです。フェアプレイの精神を一人ひとり意識することが大切だと感じました』とコメントしています

公益財団法人 日本オリンピック委員会
JOCエリートアカデミー事業
〒115-0056 東京都北区西が丘3-15-1
味の素ナショナルトレーニングセンター
TEL:03(5963)0355/FAX:03(5963)0356

JOCエリートアカデミーだよりは
以下のHPでもご覧いただけます。
<http://www.joc.or.jp/training/ntc/eliteacademy>